

描写性臨時量詞“臉”の通時的発展

島 健太

東京大学大学院

1. はじめに

臨時量詞は名詞を量詞として用いるものであり (朱 1982)、加納 (2017) は臨時量詞のうち、“一”とのみ結びついて領域の遍満状態の描写に用いられるものを**描写性臨時量詞**と呼んだ。臨時量詞と量詞の相違点として、共起する数詞は“一”に限られること、計量機能ではなく「...一面の...」という領域の遍満状態を表す機能を持つことなどが挙げられる (加納 2017: 50)。以下に朱 (1982) の例を引用する。訳は発表者がつけた。

(1) “一桌子土”“一脸汗”“一脚泥”

「テーブル一面の埃」「顔じゅうの汗」「足一面の泥」 (朱徳熙 1982: 50)

臨時量詞の文法的ステータスについては、李 (2003) が“一身冷汗”における“身”¹は名詞から量詞への変化途上にあると指摘している。しかし、全ての描写性臨時量詞に当てはまるかについては検討の余地がある。そこで本発表は、“身”と同じく用例の多い“**臉**”に注目し、その用法を分析することで、描写性臨時量詞の機能の通時的变化をより明らかにする。

描写性臨時量詞“臉”は、“一+臉+X”の形式で名詞句を形成し、その分布や共起するXは様々である。以下の(2)は“一脸X”が典型的な名詞句として名詞句の一部に用いられた例で、(3)は“一脸X”が述語になっている例である²。また、Xには、(3)の“**绯红**”のように、名詞に限らず形容詞などが入ることもある。

(2) 您的**一脸汗水**，用我们的毛巾擦干吧。

「あなたの**顔じゅうの汗**は、私たちのタオルで拭いて乾かしましょうか。」

(当代/1994年新聞精選)³

(3) 吴敏仰起面对我笑道，他**一脸绯红**，热汗淋淋。

「吴敏は私を見上げて微笑んだ、彼は**顔じゅう真っ赤**で、熱い汗びっしょりだった。」

(当代/岑凱倫『蜜糖兒』)

本発表は、描写性臨時量詞“臉”の用例を通時的に分析する。具体的には、通時コーパスを用いて名詞句“一脸X”の変化を観察し、“臉”が様態描写の機能を発達させたことを主張する。2節と3節で調査方法と結果を述べ、4節でそれを分析し、5節でまとめ

¹ 臨時量詞には器官名詞を用いることが多い (刘 2007)。“身”や“臉”もそうである。

² 一般に、中国語において単独で述語を担えるのは形容詞か動詞であり、名詞(句)がそのまま述語になる名詞述語文は一定の制約を受ける。

³ 以下はすべてCCLコーパスの用例であり、「時代区分/出典」の形式で出典を示す。

る。

2. 調査方法

調査には、北京大学漢語語言学研究中心コーパス（以下「CCL コーパス」；URL: http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/）を用いた。CCL コーパスは現代漢語コーパスと古代漢語コーパスに分かれており、各用例はタグによってさらに細かい時代区分を付与されている。本発表で用いるコーパス上の時代区分は以下の表 1 の通りである。下記の時代区分は、中国語史においては近代漢語（13 世紀から 20 世紀初頭）と現代漢語（1919 年以降）の 2 つの区分⁴に分けられる。また、公開されている時代ごとの総バイト数を元に推計した総字数も参考として同じ表 1 に示す⁵。

表 1: 時代区分と推定総字数

中国語史の区分	コーパス上の時代区分	年代	推定総字数
近代漢語	元代	1271–1368	480,942
	明代	1368–1644	10,519,151
	清代	1644–1912	24,054,539
	民国	1912–1949	17,685,670
現代漢語	現代	1919–1949	7,625,082
	当代	1949–	577,474,655

調査の具体的手順としては、名詞句“一脸 X”をコーパスで検索し、時代ごとの用例を分析した。分類には 3 つの基準を用いた。①“一脸 X”の分布、②X の語類等⁶、③X の意味特徴である。これらの基準は、構文の形式 (①②) と意味 (③) の両面の変化を捉える基準である。“一脸 X”は形態的には変化していないので、その形式変化は、構文の分布や含まれる語の特徴を観察することによって捉える必要がある。

3. 調査結果

① “一脸 X”の分布

主語、目的語、名詞句の一部、連用修飾語、連体修飾語、述語、補語が見つかった。ここではこれらの分布を、Croft (2001: 66) が品詞の類型論の議論の過程で整理した 3 つのコミュニケーション上の機能 (指示、修飾、叙述) によって分類する。主語、直接目的語、二次目的語、介詞の目的語、名詞句の一部が**指示機能**に当たり、連用修飾語、連体修飾語が**修飾機能**、述語、補語が**叙述機能**である。以下にそれぞれの例文を示し、続けて各機能の数・割合の変化を見る。

【指示機能】

⁴ 王&尚 (1996) に拠る。

⁵ 漢字 1 文字が 2 バイトに当たるため、半分に分けることで字数を概ね見積もった。ただし、1 ビットの英数字や記号が混ざっているため、実際の漢字数は半分より少なくなる。

⁶ 四字句など、語彙カテゴリーを形成しているとは言えないものも含まれるため、「等」とした。

主語 “一脸 X Predicate”(4) ...一脸奸笑全凝结在了脸上...「...顔じゅうの邪悪な笑みが顔面に集まり...」 (当代/『秀家大院』)**直接目的語 “V 一脸 X”**(5) ...把我脸上刺了一脸字...「...私の顔面上に顔一面の刺青を入れて...」 (元代/元代話本選集)**二次目的語 “V O 一脸 X”**(6) 把那桌子只一拍，溅那老人一脸热汗，那分面都泼翻了。「机をたたき、その老人に顔一面の熱い汗をかけ、麵はすべてこぼれた。」 (明代/『水滸全伝』)**介詞の目的語 “Coverb 一脸 X”**(7) 姑娘主意已定，他便把一脸怒容强变作一团冷笑，向邓九公道...「娘の心は既に定まり、彼女は顔じゅうの怒った表情を無理に冷笑に変え、鄭九公に言った...」 (清代/『童女英雄伝』)**名詞句の一部 “<人>的 一脸 X”**(8) 他的一脸黄络腮胡子就是分给三个人还够用。「彼の顔じゅうの黄色いもじゃもじゃ髭は3人に分け与えてもまだ足りるほどだった。」 (当代/『アンデルセン童話物語集』(翻訳))**【修飾機能】****連用修飾語 “<人> 一脸 X (地) V”**(9) 他一听这话，觉得是说人情来了，便一脸秋气说道...「彼はそれを聞くや否や、好意を覚え、顔じゅうもの寂しげに言った...」 (清代/『俠女奇縁』)**連体修飾語 “一脸 X 的<人>”**(10) 原来那个一脸花白圈癍的是他亲哥哥，花面判官裴文。「なんとその顔じゅう白黒のできものの (人) は彼の実兄、花面判官裴文だった。」 (民国/『雍正剣俠図』)**【叙述機能】****述語 “S 一脸 X”**(11) ...只见婆子一脸春色...「...婆さんが顔じゅう嬉しそうな表情なのがふと目に入った...」 (元代/元代話本選集)**補語 “V 得 一脸 X”**(12) ...急的一脸汗。「...焦って顔じゅう汗まみれだ。」 (清代/『紅樓夢』)

これらの機能の数・割合の変化は以下の表 3 に示してある。ほぼ全時代区分で叙述機能が過半数を占める。通時的変化としては、指示機能の割合の減少と修飾機能の割合

の増加が見られた。修飾機能は特に現代から当代にかけて増加している。

② X の語類等

名詞、形容詞⁷、動詞、四字句などが見つかり、非名詞の割合は通時的に増加していた。名詞、形容詞、動詞、四字句などの例は表 2 の列方向に示してあり、名詞・非名詞の割合の変化は表 3 に示してある。当代に非名詞の割合が増加し、過半数を占める。

③ X の意味特徴

“泥”などの物理的実体を表すものと、“怒気”などの表情を表すものに分けられ、通時的には表情等の割合が増加していた。物理的実体を表すものと表情等を表すものの例は表 2 の行方向に示してあり、それらの割合の変化は表 3 に示してある。当代に表情を表す例の増加が見られ、90%にまで達している。

表 2: X の語類と意味特徴

	②-1 名詞	②-2 形容詞	②-3 動詞	②-4 四字句など
③-1 物理的実体	一脸字, 一脸汗水, 一脸泥, 一脸唾沫	一脸黑, 一脸白 ⁸		
③-2 表情等	一脸怒気, 一脸恨铁不成刚的神态	一脸红, 一脸惶恐, 一脸灿烂, 一脸严肃	一脸笑	一脸稚气未脱, 一脸泪水纵横, 一脸的“想不起来”

表 3: ①②③各基準の通時的变化⁹

	①“一脸 X”の分布			②X の語類等		③X の意味特徴	
	指示機能	修飾機能	叙述機能	名詞	非名詞	物理的実体	表情
元代	1 50%	0 0%	1 50%	2 100%	0 0%	1 50%	1 50%
明代	9 50%	0 0%	9 50%	17 94%	1 6%	5 28%	13 72%
清代	27 29%	1 1%	64 70%	85 92%	7 8%	54 59%	38 41%
民国	8 36%	1 5%	13 59%	21 95%	1 5%	8 36%	14 64%
現代	15 43%	3 9%	17 49%	25 71%	10 29%	12 34%	23 66%
当代	314 13%	712 29%	1399 58%	1139 47%	1288 53%	233 10%	2194 90%

4. 分析

本節は、前節で示した 3 つの変化がどのような関係にあるのかを考察する。まず、

⁷ X が形容詞であっても“一脸 X”は全体として名詞句をなす。形容詞は、“一脸 X”内部で十全な形容詞的振る舞いをすることはできない。例えば、“*一脸很红”は非文になる。

⁸ “黒”や“白”は形容詞だが、顔を黒く/白く塗るためのもの（煤や白粉）を指しているのので、指示対象は物理的実体と言える。

⁹ 各セルには、トークン数と全体に対する割合を示す。

③の変化 (表情等を表す X の増加) の動機を考察する。加納 (2017: 56) は、臨時量詞は「遍満状態の事物と一体化したものとして主観的に捉えなおされた領域」を表すことを指摘した。“一脸汗”などの“一脸<物理的実体>”も、顔と、顔面上で遍満状態の汗を一体化したものとして捉えていると考えられる。一方、“一脸严肃”などの“一脸<表情>”は、領域 (=顔) と一体化する対象が具体物から抽象物に拡大している。表情と顔の隣接関係に基づくメトニミーによる拡大である。最終的には、“一脸 X”のうちで“一脸<表情>”が用法の中心を占めるまでに变化した。

次に①の変化 (叙述・修飾機能への拡大) について考察する。名詞句“一脸 X”が述語として叙述機能を担う現象は、小野 (2008) が示した名詞述語文の 2 種類の機能、「非偶有的属性を基準とする分類」と「存在描写」のうち、存在描写に当てはまる。主語の身体上に現れる一時的様態を描写している (加納 2017)。“一脸<表情>”は中でも人物の有り様を描写することにより適しており、同じく実況的描写に優れた名詞述語文と相性が良い。そのため叙述機能は安定して割合が高い。一方で修飾機能を担う“一脸 X” (連用修飾語、連体修飾語) もまた、人物を描写する。より人物の描写に優れた“一脸<表情>”の拡大に連動して、同じく描写を担う修飾機能が増加した。

最後に、②の変化 (形容詞等の非名詞の X の増加) は、表情等を表す表現に非名詞が多いことから説明できる。表情等を表す X の増加と非名詞の増加が連動しているのである。

以上をまとめると、“一脸 X”のうち、メトニミーによって抽象物の描写に拡張した“一脸<表情>”が用法の中心になり、それに連動して修飾機能が増加し、同時に X=非名詞の例も増加したと考えられる。

5. おわりに

本発表は、“一脸 X”の通時的変化を記述し、描写性臨時量詞を含む名詞句が様態描写の機能を発達させる過程を示した。“一脸 X”は、メトニミーによって“一脸<表情>”が用法の中心となり、叙述機能と修飾機能が圧倒的多数になり、X=非名詞の例が増加した。これらの変化は全て連動している。“脸”を含む名詞句の、様態描写の機能を発展させる方向への変化は、李 (2003) が示した“身”の発展 (名詞から量詞への変化途上にある) とは対照的である。描写性臨時量詞の発展は画一的ではないことが分かった。

参考文献 : Croft, William. 2001. *Radical Construction Grammar: Syntactic Theory in Typological Perspective*. Oxford: Oxford University Press./小野秀樹 (2008) 『統辞論における中国語名詞句の意味と機能』白帝社. 東京./加納希美 (2017) 「現代中国語における数量詞の構文機能 : 属性・様態描写の機能を中心に」博士論文, 東京大学./李淑娟 (2003) 「“一身冷汗”类短语的再探析」『南京航空航天大学学报(社会科学版)』5(2): 39-41./刘晨红 (2007) 「器官名词作临时名量词的认知分析」『修辞学习』2007(3): 74-77./王传德&尚庆栓 (1996) 『汉语史』济南: 济南出版社./朱德熙 (1982) 『语法讲义』北京: 商务印书馆.
コーパス : 詹卫东, 郭锐, 谌贻荣 (2003) 「北京大学中国语言学研究中心 CCL 语料库 (规模: 7 亿字, 时间: 公元前 11 世纪-当代)」, URL: http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus